



あけましておめでとうございます

本年も「りんくるのめざす支援」（りんくる1月号に掲載済み）を実践してまいります。よろしくお願いたします。

冬期間の3学期は、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症などの流行が心配です。りんくるでも、入室時の体温測定及び手洗いの徹底や加湿対策を行い、健康的な環境づくりに努めてまいります。

また、雪道による交通事故対策として、徹底した安全運転を実施しています。そのために、帰りの送迎時間が予定より遅くなるのが予想されます。ご利用者の安全を第1に配慮しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

冬休み期間のりんくる



お昼は、みんなで、弁当を広げて、食べました。遠足にきたようにニコニコ笑顔で食べました。毎日、午後から1時間くらい、近くの銀河公園に行き、そり滑り、アスレチック遊具、サッカーなど楽しみました。りんくと銀河公園の間にある「濁川」にかかる橋から、カモの親子を観察することも、楽しみの一つでした。多い時には10羽のカモがいました。公園から戻り、おやつを食べました。年長さんの子から高校生までの子が一緒に遊ぶことは、滅多にありません。とても、貴重な体験になりました。



冬休み期間を振り返って

りんくるで、長い時間、様々な年齢の子と過ごすことによりいくつかの成長がありました。お伝えします。

1. 「ごっこ遊び」ができるようになりました。

ごっこ遊びは、子どもが身近な物を別のものに見立てたり、好きな役割になりきって遊ぶことを指します。例えば、おままごとやヒーローごっこなどが含まれます。この遊びは、一般的に2歳頃から始まり、4~5歳でピークを迎え、7歳頃まで続くと言われています。ごっこ遊びは、以下のような多くの発達の利点を期待できます。

○想像力・創造性: 子どもは目の前にないものをイメージして表現する力を育てます。例えば、バナナをマイクに見立てたり、段ボールを車にしたりすることで、象徴機能が発達します。

○言語能力: ごっこ遊びを通じて新しい言葉を使ったり、会話のやりとりを練習したりすることで、言語能力が向上します。研究によると、ごっこ遊びと言語の発達には正の関連があることが確認されています。

○社会性・コミュニケーション能力: 友達と一緒にごっこ遊びをすることで、役割を決めたり、順番を待ったり、相手の気持ちを想像したりする経験を積むことができます。

○感情調整力: 様々な感情を表現することで、自分の気持ちをコントロールする練習になります。安全な環境で感情を体験することができるため、感情の理解が深まります。

2. 話し合いで、さまざまことを決めることができるようになってきました。

その日の滑る順番や集団遊びで何をするか決める時などは、スタッフから、「話し合いで決めてくださいね」「話し合いで決まらないときは、スタッフを呼んで下さいね」と、常に声をかけて、見守る支援をしています。今までは、誰かが怒ったり、泣いたりして、スタッフが介入することが多かったのですが、最近は、何となく話し合いで決まるようになってきました。それぞれの子に円滑な人間関係を築き、集団の中でルールを守り協力しながら生きていくために必要な社会性が育ってきています。

3. 使ったおもちゃの後片付けを最後までできるようになってきました。

使ったおもちゃを片づけてから、次のおもちゃを出すことが基本ですが、個々に違うおもちゃで遊んでいる場合はそうはいきません。部屋の中にたくさんのおもちゃが散乱していることもあります。子どもらに、おもちゃを片づけるのにどのくらい時間がかかりそう、と尋ねると、何分位と応えることができるようになりました。スタッフが、「じゃあ、何時何分から片づけよう。」と声かけすると、時間を見ながら、活動を続け、時間になったら、「おもちゃをしまう場所の写真」を見ながら、一斉に片付けを始めます。スタッフが全く手伝わぬ時もあります。使ったものは、決まった場所に協力して、片づける意識がみについてきたようです。

支援評価アンケートのご協力ありがとうございます。
1月31(土)が提出締め切りとなっています。よろしくお願いします。



／ よろしく
／ 願います
／